

みんなで考えよう 市町合併

第6回

「市町合併シンポジウム」レポート

市町合併推進室
☎22-1411 (内線476)
FAX22-1398



市では、市民の皆さんに市町合併の議論をさらに深めていただくため、1月12日(土)にひこね市文化プラザで「市町合併シンポジウム」を開催し、約170人に参加していただきました。

シンポジウムでは、同志社大学法学部教授 真山達志さんの基調講演や、真山さんにパネリスト4人を交えたパネルディスカッションなどが行われました。今回は、そのあらましを紹介します。

基調講演

「市民生活と市町合併」

同志社大学法学部教授 真山達志さん



「ここ1年ぐらゐの間に、市町村合併が急に話題になるようになりました。その背景のひとつに、地方分権があると思います。地方分権とは、国から地方へと財源と権限を移すことです。これが本当の意味のあ

地方分権と市町村合併

「ここ1年ぐらゐの間に、市町村合併が急に話題になるようになりました。その背景のひとつに、地方分権があると思います。地方分権とは、国から地方へと財源と権限を移すことです。これが本当の意味のあ

問われる官民の役割分担

反対に、合併すると、きめ細かなサービスを住民に提供できなくなる、と心配する人がいます。きめ細かなサービスとは、専門的知識もさほどいらぬ、だれでもできるようなことを税金を使って

将来のまちの姿を描く

よく、合併の議論をするときに、合併のメリット、デメリットを比較することがありますが、この議論は短期的な損得勘定に陥りやすいと思います。合併は、目的ではなく、手段です。まちの将来に不安や不満があるなら、それを解消する手段として合併を考えたらどうか、ということ。そのためには、将来のまちづくりをしっかりと見据えて、何のための合併かをはっきりさせることが大事になります。

合併の話をつきかき、市がいろいろな情報を市民に提供していると思います。これを機会に、この湖東地域、あるいは

やるということでしょうか、今後でもいいのでしょうか。

最近、民間であって、営利を目的としない活動が目立っています。NPO、ボランティア、自治会とかいったものが、そうした人たちが専門性のない、ちよつとした仕事を無償です。そうして、役所は専門的な知識がいる仕事とか、お金のかかる大きな仕事だけに特化する。そのほうが、総合的に見て合理的なのではないか、という意見があります。

これは、役所が民間に仕事を押しつけているということではありません。例えば、地域の問題であれば、地域で主体的に解決する、そして、地域の手が負えない問題だけを役所にしてもらう、ということ。合併を考えるというのは、このように役所にどういった仕事をしてもらうのかを考えるということなのです。

湖北地域を含めた地域をどんな地域にしていくのか、市民が議論をするだけでも意味があることではないでしょうか。

合併特例法というのがあって、平成17年3月までに合併すると、とくに財政的にかんがりの恩恵があります。市が合併の議論を急ぐのは、地域経営の観点からは当然です。

議論を深めるためには、期限を切るということが大事かもしれません。市民の皆さんも少し急いで、中身のある議論をしていただくことを期待しています。

パネルディスカッション 「市民生活と市町合併」

- パネリスト
- 上ノ山真佐子さん (NPO法人サタデーピア代表)
- 田中利和さん (社)彦根青年会議所副理事長)
- 棚橋幸子さん (彦根商工会議所女性会副会長)
- 藤田治夫さん (稲枝地区連合自治会長)
- コーディネーター 真山達志さん

合併についてどう考えるか

上ノ山 今の合併の議論は、まず合併ありきでメリットやデメリットが出されていて、どんなまちにしていこうか、というビジョンがないように思っています。住民参加が進んで、行政と対等の関係が築ければ、NPOがサービ



上ノ山真佐子さん

の担い手になっていくことは可能だと思えます。

田中 合併については、青年会議所でも「市民主権コンファレンス」を開催するなど取組を続けています。最近急速に合併について取組を進める自治体が増えています。まだ行政レベルでしか議論されていないようです。市民と行政がより良いパートナーシップを築いて、合併についても、対等な視点でまちづくりを進めていくことが大事です。

棚橋 経営者としては、産業が活性化するようにしたいのですが、交通の便を良くするためには、米原町が合併に入ることが大切です。また、女性の社会参画のためには子育て支援が必要で、市域が広がれば、勤務先の近くに子どもが預けやすくなるのもメリットです。商工会議所では、将来的には大同合併による30万都市の実現に向けて、当面は1市4町の枠組みを考えています。湖東地域市町合併研究会では、腹



棚橋幸子さん



藤田治夫さん

現在の課題点はどこ?

田中 地域コミュニティやNPOなどの活動に横のつながりがないので、ネットワークづくりを進める必要があると感じています。

藤田 稲枝は自治会活動が盛んなところですが、近年、婦人会や青年会の組織力が低下してきています。棚橋 車中心の社会となり、駐車場が少ない銀座などの中心市街地が衰退しています。

上ノ山 市民と行政のパートナーシップが必要なんです、そのためには情報

市町合併とこれからのまちづくり

藤田 合併を通して、新しいまちづくりをしていくという夢を描いていきたいと思っています。

棚橋 合併すれば、宿泊してもらえらるような観光ルートをつくるなど、観光マップを充実させられます。人が人を呼べば商業も発展し、いいまちづくりができると思います。



田中利和さん

田中 合併協議会をぜひ設立して、議論を高めていく必要があります。合併で産業が活性化すれば、青年も地元に残るようになると思います。

上ノ山 NPOは地球市民として活動していて、枠組みにはあまりとらわれていませんが、合併の議論を通して、みんなでこれからのまちづくりについてビジョンを描けるように、真の意味での住民参加が実現されることを願っています。